



第74回日本消化器外科学会総会

LS25

2019年7月18日(木)
12:10-13:00

第12会場

グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール 1階 紅玉

敗血症性DICの新規病態と 目から鱗の最適治療法とは!

座長

岡本 好司 先生

北九州市立八幡病院 副院長
消化器・肝臓病センター センター長

演者

太田 哲生 先生

金沢大学
消化器・腫瘍・再生外科 教授

ランチョンセミナーは整理券制です。

- 整理券は、会場の発券機もしくはスマートフォンをお持ちの方は日本消化器外科学会総会専用アプリから取得可能です。
- 整理券発券機は、グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール1階 ロビーに設置しています。
- 日本消化器外科学会総会専用アプリの取得方法は、第74回総会Webサイトまたは当日配布のプログラム集でご確認ください。
- 整理券の枚数には限りがございます。悪しからずご了承ください。
- ランチョンセミナー整理券は、開始5分後に無効となります。

共催

第74回日本消化器外科学会総会
一般社団法人 日本血液製剤機構

第74回日本消化器外科学会総会 LS25

敗血症性DICの新規病態と 目から鱗の最適治療法とは！

太田 哲生

金沢大学 消化器・腫瘍・再生外科

これまでは、敗血症時の高サイトカイン血症が臓器障害・DICの主たる原因であり、これらに対する積極的治療で予後が改善すると考えられてきた。しかし、それだけではなかなか改善しない症例も経験する。その理由は、高サイトカイン血症という臨床症状の陰に隠れて、腹腔内の感染部位と全くかけ離れた肝類洞内で発生する好中球細胞外トラップ (NETs) というイベントに気づかず、NETsの治療が全くなされないからである。ひとたび、NETsが必要以上に過剰に発生すると、細菌感染症にも関わらず血中の好中球数は逆に減少する。そして、early mediator ($\text{TNF-}\alpha$ ・ $\text{IL-1}\beta$) に少し遅れて、NETs由来のHistoneやHMGB1などのalarminが類洞内皮細胞の障害・剥離・脱落を惹起する。その結果、肝Disse腔内へ多くの血小板が流入・凝集 (血管外血小板凝集) し、肝SOSや敗血症性DICの臓器障害が発生する。

本セミナーでは、この敗血症性臓器障害・DICの新規病態について、とりわけ肺病変よりも肝病変関与の重要性と目から鱗の最適治療法についてわかりやすく概説する。

Key words: 肝臓の類洞、好中球細胞外トラップ、内皮細胞の障害・剥離・脱落、血管外血小板凝集、敗血症性DIC